甲第203号証

陳　述　書

平成29年10月17日

東京地方裁判所民事第３７部合議Ａ係　御中

氏名　阿部宣男

１　取材を受けることになった経緯について

私は，今回問題になっている記事を書いた日経 BP 社の吉野次郎記者のことは，今回の取材を受けるまで全く知りませんでした。

吉野記者が，私の友人に，私の話を聞きたいと言ったようです。吉野記者が，その友人にどういうルートで連絡したのかは知りません。私は，その友人から，日経の記者がホタル生態環境館のことや懲戒免職をされたことなどについて話を聞きたいと言っていると聞かされました。私は，自分が懲戒免職をされたのは不当だと考えていましたし，ホタル生態環境館を閉館させられる動きには納得できない点がありましたので，そういうことを分かってもらいたいという思いから，吉野記者の取材を受けることにしました。

私は，その話を聞いてすぐに，友人から吉野記者の電話番号を教えてもらい，電話を掛けました。私は，吉野記者に，取材を受けても良いです，取材はいつでもいいですよということを伝えました。すると，吉野記者が，「今日でもいいですか」と言ってきたので，急遽，その日に取材を受けることになりました。

それが，平成２７年２月６日のことです。

２　取材を受けるときの状況

吉野記者とは，その日の午後，世田谷線の松陰神社前駅で待ち合わせをしました。私は，吉野記者と合流した後，当時世田谷区にあった事務所に移動し，そこで取材

を受けました。取材の場には，私と私の友人２名，吉野記者の計４名がいました。今回の記事は，私だけが取材に答えた形になっていますが，取材には，私だけではなく，私の友人たちも質問に答えることもありました。

吉野記者は，日経の記者だと自己紹介をし，今回の取材結果を日経ビジネスという雑誌に記事を載せたいという説明をしていました。私は，日経ビジネス online というものがあることも知りませんでしたし，自分の記事がそのようなインターネット上のサイトに載るとは思ってもいませんでした。

私たちは，解雇を争って板橋区と裁判中だったので，裁判に関することはあまり話すことができないと断ってから，取材を受けました。また，私は，取材を受ける時にも，話をしている最中にも「裏を取ってよ」「必ず役所側の意見を聞いてくださいよ」ということを言っていました。それに対して，吉野記者は，「分かりました」「板橋区に確認をします」ということを言っていました。

３　取材の内容

吉野記者は，今回の懲戒免職の件について何があったんですかということを聞いてきました。

でも，懲戒免職の詳しい内容は裁判に関わるので話すことができませんし，ちょうど板橋区が平成２７年１月に乖離報告書を公表したばかりで私の関心もそこにあったので，私は乖離報告書について沢山話をしました。板橋区が出した乖離報告書は極めてずさんな生息調査に基づいたもので，私が異代飼育をしていたのは間違いないということを説明しました。また，私は，板橋区の中で，議会などで自分の主張を話す機会がなく，板橋区の山崎氏，井上氏などが密室で話を決めてしまうのは不当だと訴えました。他にもクロマルハナバチのことやホタルがどのような一生を送るのかということも理解してもらいたくて、時間をかけて話しました。

取材は全部で２時間くらいでしたが，その中で一番時間をかけて話したのは，今申し上げたとおり，乖離報告書の前提になっている板橋区の生息調査がいかにずさ

んなものであったかということと，その調査のせいでせせらぎ内のホタルが流されてしまったということでした。私は，言葉での説明では伝えきれないと思って，吉野記者に生息調査の映像も見せました。また，取材後にも生息調査の問題点を検証できるようにと思って，吉野記者にその映像データもお渡しました。それから，乖離報告書ではホタル生態環境館のホタルのDNAが西日本のものだったと指摘されていましたから，こんなずさんな調査はないということも時間をかけて話しました。

吉野記者は，なるほどと言いながら，熱心に聞いてくれている様子でした。私は，吉野記者は自分の話を分かってくれていると感じていました。

取材の中で，私は，確かに，ホタル生態環境館が閉鎖されることになった裏には利権政治が絡んでいるという噂話があるという話をしました。私は，この利権政治の関係については，事実関係は分からない，ただ，こういう噂話があるよと前置きをした上で話をしています。

ホタル生態環境館の閉館に関して跡地をめぐる利権が絡んでいるという噂話は，私の周りの人や近所の人も話をしていました。そこに区議会議員が絡んでいるという話も，インターネット上に書かれていました。私が懲戒処分になった後，ホタル生態環境館に関する報道や情報があるたびに友人たちがその情報を教えてくれていましたが，そうして紹介してくれたインターネットサイトの一つに今申し上げた利権に関する話が書かれてありました。

当然，私自身はこの書き込みを書いたこともありませんし，私の友人にも確認をしましたが，この書き込みをした人が誰かは分かりませんでした。内容からすると，板橋区の内情に詳しい方ではないかと考えていました。

私は，ホタル生態環境館は，毎年，ホタルの夕べなどで多くの人を集めていましたし，板橋区の中でも人気の施設だと自負していましたから，こんなに人気がある施設が突然閉鎖の話が出るのはおかしいと思っていました。ですから，こうした噂やインターネット上でのことはありうる話だと思っていました。

私が吉野記者との話の中で利権政治の噂があるという話に触れたとき，最初，「と

ある議員」という言い方をしていました。しかし，吉野記者から誰ですかと聞かれたので，松崎議員や別の議員の名前を挙げて，彼らだと噂されていることを伝えました。そして，私は，松崎議員たちの名前を見たインターネットのサイトを紹介しました。私は，そのサイトのことを，タイトルの一部をとって「キンピーサイト」と呼んでいましたが，吉野記者に対しても「キンピーサイト」と呼びながら，そのサイトのトップ画面を見せて，それを読んでみてくださいと伝えています。

吉野記者にこの話題の話をした時間ですが，話題が色々な方に飛ぶ中でこの話に触れた時間を全部集めて，１０分位からどんなに長くても２０分位だと思います。

先ほど申し上げたとおり，私は，取材を受ける時にも，話をしている最中にも「裏を取ってよ」ということを何度も言っていました。それに対して，吉野記者は，「分かりました」ということを言っていました。実際に，吉野記者は，その日のうちに板橋区に取材に行くと言っていました。ですから，私は，自分が話した話をもとに，吉野記者が取材をして，真実を明らかにしてくれることを期待していましたし，そのうえで明らかになった情報を雑誌に掲載してくれると信じていました。まさか，今回のような形で記事にされるとは思っていませんでした。

今回，日経ビジネスオンラインに掲載された記事は，私が吉野記者と話をしている多くの話の中で，吉野記者が記事として面白いと感じた部分だけを抜き出して，まとめたものです。私は，その時吉野記者に質問されたことに対して，自分が思ったことを話していますので，いろいろなところに話に飛んだりしていたと思います。ただ，私としては，その時の取材では，乖離報告書のことを一番沢山話したので，そこをメインに記事にしてもらえると思っていましたが，実際の記事はそうはなっていませんでした。

４　取材後のやり取りについて

取材が終わった後，吉野記者からは，一切連絡がありませんでした。そのため，私は，取材は記事にはならなかったのかなと思っていました。

ですが，平成２７年３月２５日に，今回問題になった記事がいきなり日経ビジネスonlineに出ました。そのこと自体，友人から聞いて初めて知りました。記事が出ること自体知らなかったくらいですから，当然記事が発表される前に私が原稿のチェックをしたこともありません。

私は，この記事を見て正直大変がっかりしました。記事の内容は私のことを疑い，信用できないような人物として書いているもので，私が思っていた内容とは全く違いました。一番一生懸命話した乖離報告書のこと，生息調査の問題点について，私が指摘したことに触れてくれてはいませんでした。私は，吉野記者があちこちに取材をして乖離報告書の問題点やホタル生態環境館が閉館に追い込まれた本当の理由を追及してくれると思っていました。けれども，吉野記者は役所の話を聞いただけで，それを信じたような記事を書いていました。

５　最後に

私は，話した内容をもとに吉野記者が取材をし，真実を追求してくれると思っていましたし，今回のような形で記事になるとは思っていませんでした。

松崎さんが，吉野記者ではなく，私だけを名誉棄損を訴えるのはおかしなことだと思っています。

以上